

第 3 号

発行 黄檗宗青年僧の会「大阪の集い」の有志  
教化布教紙研究会  
霊龜山 九 島 禅 院  
〒550 大阪市西区本田3丁目4-18  
Tel 06-582-5772

仏心ある生活を  
**さちあ**

# 広大学部長 殺人事件

## 仏教的解決法

こともあろうに、国立大の学部長室で部屋の主が刺殺された。しかも、死体の上に砂が、頭と顔に水がかかけられていた。その奇怪さが、世間の耳目を集めました。ご存じの方も多いことでしょう。昨年の夏のことでした。その後、被疑者が逮捕され、取り調べの結果、被疑者が置かれていた大学助手の悲劇的な立場も同時にクロースアップされました。確かに、これほどまでではなくても、職場の人間関係に悩み、ソリの合わない上司への不満をつのらせている方も多いと思います。

あとの四苦は「愛別離苦」といって、愛する者と別かれなければならぬ苦や、「怨憎会苦（おんぞうえく）」「怨み憎んでいる者に会わねばならぬ苦しみ、そして「求不得苦（ぐぶとく）」「求めても得られない苦しき」、五陰盛苦（ごおんじょうく）」「自己に執着することから発する苦しみです。「四苦八苦（しくはつく）」という言葉も、ここから出たのです。ともあれ、人生そのものが苦であると仏教では教えているのです。人間関係についてみても人の軋轢（あつれき）は私たち凡夫がこの世に生きている限り、まぬがれぬ苦しみのなのです。あの人さえいなければどれだけこの職場が楽しいのか、と思う相手が必ずいるものです。だから、何度職場を変えてみても、その苦しみから逃れられないのです。そのところを忘れてはいけません。

一方キリスト教では「汝の敵を愛せよ」といって、どんな嫌な相手でも愛さねばなりません。が、仏教では、どこへ行っても必ず憎む者はいるし、そうした存在が厳然とある事実を認めよというのです。

この世界を「娑婆（しゃば）」とよんでいます。サンスクリット語（古代インド語）の「サーハー」を音訳したものです。「サーハー」とは忍ぶという意味があります。

この世では、他人の過ちや迷惑を耐え忍び、じっと我慢しなければならぬのです。なぜならば、私たちもまた、どんなに努力しても他人に迷惑をかけずに生きていくことなどできないからです。そうである以上、他人から受ける迷惑も許してあげなければならぬのです。だから、この世は「娑婆」であり「忍土」なのです。



